



# 大野市教育委員会たより

令和元年7月19日発行 第11号

発行 大野市教育委員会教育総務課  
〒912-0086 大野市天神町 1-1  
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110  
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月11日(木) 午後7時～9時15分 次第 ・教育長挨拶  
場 所：小山小学校体育館 ・1部 説明「大野市の教育について」  
対象者：小山小学校保護者(出席者9人) ・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎小規模の小学校から大規模の中学校へ入学する子どものケアはどうか。

- ⇒ ■中学校のクラス分けの時に、小学校の担任と中学校の担任がしっかり話をして配慮しながら決めている。子どもたちは、すぐに環境に慣れ、友だちを作っている。
- ⇒ ○中学校へ行く前のケアはないのか。
- ⇒ ■奥越の複式学級を持つ学校同士が、4年生の時に夏休みに交歓会を行い、体験活動や交流を通じて多人数での経験を積んでいる。県ではスカイブ(パソコン等を利用したインターネット電話サービス、相手の顔を見ながら話ができる)を導入し、他の子どもたちと話している。小規模校の課題は、クラスでの話し合いが成り立ちにくい。そこで全校での話し合いをするなどしてカバーしている。
- ⇒ ○交歓会は一度だけなのか。
- ⇒ ■一度だけである。市の連合音楽会や連合体育大会などは、全学校が集まるので、いろいろな子どもたちと知り合う機会となっている。小山小では、有終南と一緒に勉強する機会を設けている。

◎以前の再編計画の時は絶対反対と思っていた。今年4月に子どもが開成中に入り、大規模校の中学校のイメージが変わった。競争相手がいて、仲間がいて、いろいろなことを一緒に分かち合え、切磋琢磨していくことを体験できている。担任の力や友だちの影響によると思う。そういうことがあり、再編について賛成に変わってきている。小規模校にも良さがある。中学校で積極的に授業で発言できているのは、小山小で培った力だと感じている。小山小では、子ども1人の清掃範囲は広いが、みんなモクモクと一生懸命やっている。それが当たり前だったが、開成中ではトイレ掃除を3人でやることに最初は驚いていた。また、周りの影響でトイレ掃除を一生懸命しなくなってきているみたいである。大規模の小学校で育つと、そのような純粋さが薄れるのではないかと思う。

◎大人数のクラスでの切磋琢磨はすごく良いと思う。人間として成長させてくれる。いろいろな人の意見を聞いて、それに対して発言することは必要なことだと思う。しかし、先生の目が行き届かない。再編は必要だと思っている。出来れば、1クラスの人数を多くして欲しくない。20人までにして欲しい。30人のクラスだと埋もれる子がいる。小山小の子に発言力があるのは、少人数の環境で育ててもらったからだ。もし、30人のクラスになるのであっても、20人と同じケアができる方策を考えて欲しい。

- ⇒ ■開成中は、1クラスが約25人である。県の施策である「元気福井っ子笑顔プラン」により、中学校1年生は1クラス30人(法令上では40人)で、2・3年生は32人としている。小学校1年から4年生までは1クラス35人、5年から6年生までは36人としている。市では、30人以上のクラスに結の故郷教育支援員を各学校に配置して、授業中に1人1人の状況に応じて支援をしている。

◎自分は、小学校の時よりも大きい中学校に行った時の方が、いろいろな人に会えて楽しかった。子どもは、自分の時よりも少ない人数のクラスにいるので、開成中に入学した時に、人数の多い環境になじめるかどうか不安がある。複式学級のある学校だけの取組みには、どのようなことがあるか。

- ⇒ ■4年生は、大野と勝山のへき地・複式学級のある学校が夏休みに集まって交歓会を実施している。小山小が有終南に出かけているのは全児童で取り組んでいる。これは開成中で一緒になるので事前交流を兼ねている。そこでは、小山小では出来ない体験、例えばクラブ活動(手芸クラブやスポーツクラブ、百人一首クラブなど)をしたり、多くの人数で授業を行ったりしている。
- ⇒ ○自分が小学校高学年の時に全学校参加でスキー合宿があったが、今はないのか。
- ⇒ ■生涯学習の一環で実施したり、子ども会連合会で実施したりはしている。民間による小学生を対象とした夏休みの体験企画はいくつかある。退職した教員が小学校3年生を対象に「ふるさとクラブ」を行い、学校同士の交流を推進している。

- ◎自分の子どもも先日、有終南で交流をしてきて、久しぶりに保育園の時の友だちに会えて「楽しかった」と言っていた。1・2年生の時は、有終南との交流を年1回ではなく、たくさんして欲しい。複式学級は個人的には不安である。授業の半分が他の学年に使われていて、先生の教える範囲が狭まると考える。
  - ⇒ ■複式学級は、単純に1学年に教える時間は半分となる。1・2年、3・4年・5・6年の複式は学習内容がよく似ているので教えやすいが、2・3年、4・5年などの変則的な複式では教えるのが非常に難しい面はある。そのために、支援する教員を増員している。
- ◎再編計画は白紙にしたのか。
  - ⇒ ■計画はまだある。再編計画の学校数と再編時期、再編方法を見直す取組みをしている。
  - ⇒ ◎子どもはどれぐらいまで減るのか。
  - ⇒ ■平成27年の再編計画（素案）時のデータでは、平成元年の出生数は420人で、平成25年では227人である。令和8年から12年の間は年間143人、令和18年から22年の間は年間118人と推測している。現在は年間200人ぐらいの出生があり、1年間に5人ずつぐらい減るが、ずっと減るのではなく、下げ止まりがあると予想されている。市全体の人口は1年間に500人ずつ減っている。
- ◎計画の見直しでは、何クラス作る予定なのか。
  - ⇒ ■現在は見直しの案がない状況で、皆さんから意見を聞いてから、素案を作っていく予定である。国が示す適正規模は、小学校で1学年2から3クラス、中学校で1学年4から6クラスである。平成29年1月策定の再編計画では、中学校は1学年7から8クラス、1クラス30人とし、小学校は1学年3から4クラス、1クラス35人前後と想定していた。令和8年の再編時から、子どもがさらに減っていくことを見越して計画していた。段階的に再編をすると、校歌や通学路、ランドセルなどいろいろ変わり、子どもにも保護者にも負担が掛かると考えていた。
  - ⇒ ■1人で1学年見るのは大変である。複式学級だと2学年であり、もっと大変になる。どこが大変であるかという、教員は相談する相手がいないことである。2学級あると学年主任がつき、教員は主任と相談しながら授業を組み立てたり、先輩教員の良い教材をもらったりすることができる。1人で悩まずに相談しながら良い教育を進めることができる。
- ◎新しく学校を建てた場合、税金が増えて負担が掛かると思う。途中から再編されると、体操服やランドセルなど、新しい物をすべて揃えないといけなくなり、その負担もある。
  - ⇒ ■税金は標準税率である程度決まっており、国への申請や議会の承認が必要となる。市のすべての学校の制服は一緒である。体操服の購入は、保護者に負担が掛からないように考えていきたい。再編をする場合は、必ず準備期間を設け、いいスタートが切れるようにする。
- ◎再編により、新築整備による負債、廃校及び新校舎の維持管理経費が掛かる。財政を切り詰めた中で、教育が今より充実していればいいが、教育環境にしわ寄せがくるのではないかと心配している。学校再編をして教育の質が落ちたのでは意味がない。
  - ⇒ ■新築の整備経費は、半分を国の補助金で、残り半分を借金し、数年で少しずつ返す予定としていた。学校再編で管理経費が下がった分、教育に係る予算を再編した学校に集中して手厚く配分し、良い教育を進めることが出来ると考えている。廃校となる校舎の維持管理は、活用方法にもよるが必要となる。
- ◎バスの運行をどのように考えているか。地区を回る順番や、バスの台数、乗車時間などが気になる。
  - ⇒ ■アンケートでも、一番不安に思われていることは通学距離と時間である。バスの運行にはいろいろなパターンがあると思うので、しっかり考えていきたい。現在、上庄小の一部の子どもたちは乗合タクシーで、富田小の勝原地区の子どもたちはタクシーで登校している。
  - ⇒ ◎放課後子ども教室へ行くシステムも一緒に考えてほしい。
- ◎このような意見交換会を1回ではなく、回数を重ねてほしい。
  - ⇒ ■小山地区対象で意見交換会を開催するので、来ていただきたい。
- ◎今の小山小の教育に不満もなく、安心している。放課後子ども教室でも、地域の方にしっかり見てもらい、相談にも乗ってくれている。子どもはいろいろな人のおかげで育っていて有難い。現在のような地域の関わりのある形を残してほしい。
- ◎少人数の小学校に子どもが入学することに最初は不安があった。入った後、上の学年の子どもたちなどが子どもを受け入れてくれて安心した。大人しい性格の子どもが授業で積極的に発言している姿を見て嬉しく感じた。複式学級の授業を見たことがあるが、内容にもよるのだろうが、集中出来ないような雰囲気だったので、少し不安を感じた。今日はたくさん聞いてもらって嬉しかった。来なかった友人にも伝えたい。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

